

紀伊國名所圖云

六之卷下  
那賀郡

ル 4  
325  
10







紀伊國名所圖會卷之六下目錄

九頭神社 天徳宮 春日大社  
 赤木夷神社 藏王権現社  
 光恩寺 天徳皇太后 八幡宮  
 金谷藏王権現 若宮大社 八幡宮  
 秤石 比前王子社  
 田村麻呂毒蛇退治山王神社 伊太波神社  
 栄福寺 圓柏樹 拾岩  
 大國中菟神 御加井  
 八王子社 旗井  
 根來山 荒田神社  
 信貴石 白山大権現  
 實相院 愛宕権現  
 辨財天社 地藏堂  
 正智院 正智院  
 今鳥石 一の松  
 岡山廟 子守作 勝手作  
 炮術家 種  
 田村軍塚 種  
 大市姫神社 種  
 五智居墓 種  
 御船神社 種  
 善提峠 種  
 樂靜院 種  
 鼓谷 種  
 莊嚴院 種  
 藥師寺 種  
 大橋神社 種  
 林泉 種  
 明良觀音堂 種  
 日延藏王権現 種  
 吉田山王行 種  
 大木神社 種  
 正福寺 種  
 住寺池 種  
 女人堂不動 種  
 慈光院 種  
 阿伽井 種  
 縮荷神社 種



十輪院跡

密巖院

小池坊跡

利益院

仰廟

龍王社

大傳法院

伊太祈曾社

光明會道場

寶幢院

荒神社

車留石

三部神社

寶積院

正等院

福壽院

蓮花院

瑞巖院

蓮王院

寶生院

放光院

金剛院

杉の坊

徳王院

愛澤院

仰船山

大門跡

仰船神社

錐鑽不動尊

德藏院

來迎ヶ嶽

一采山

觀音堂

弘法大師堂

大塔

九社神社

骨堂

仰影堂

圓明寺

文珠堂

經藏

律學院

智積院跡

般若院

中性院跡

理性院

兩化院

灌雪院

地藏院

靜然院

金剛院

大慈院

徳王院

仰船神社

九頭神社

三毛村にあり相殿は妙羽の神... 九頭神社の由来は...

末法

一葉の松... 末法の松の伝説...

當分の紀

三毛麻呂の造建... 當分の紀の物語...

太子の臣

守念大臣瓜討... 太子の臣の伝説...

仰池山法界院薬師寺

仰池山法界院薬師寺の由来... 仰池山の歴史...

仰本夷神社

仰本夷神社の由来... 仰本夷の伝説...

崇徳社

崇徳社の由来... 崇徳の歴史...

原

原の由来... 原の歴史...

置帆

置帆の由来... 置帆の歴史...

斎部

斎部の由来... 斎部の歴史...







宮堰水祭

こころわいの  
沖まきり  
ふせのうけ  
志明

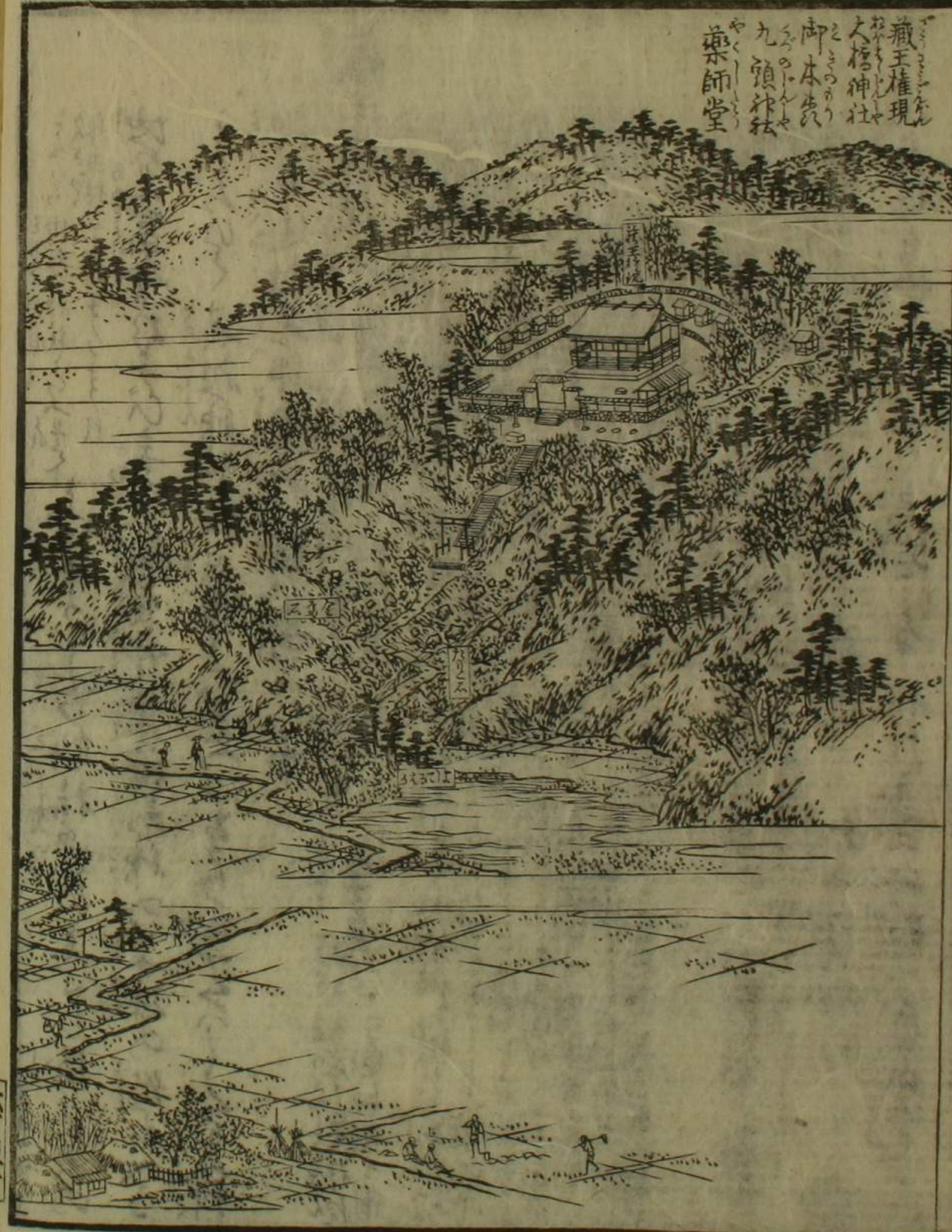
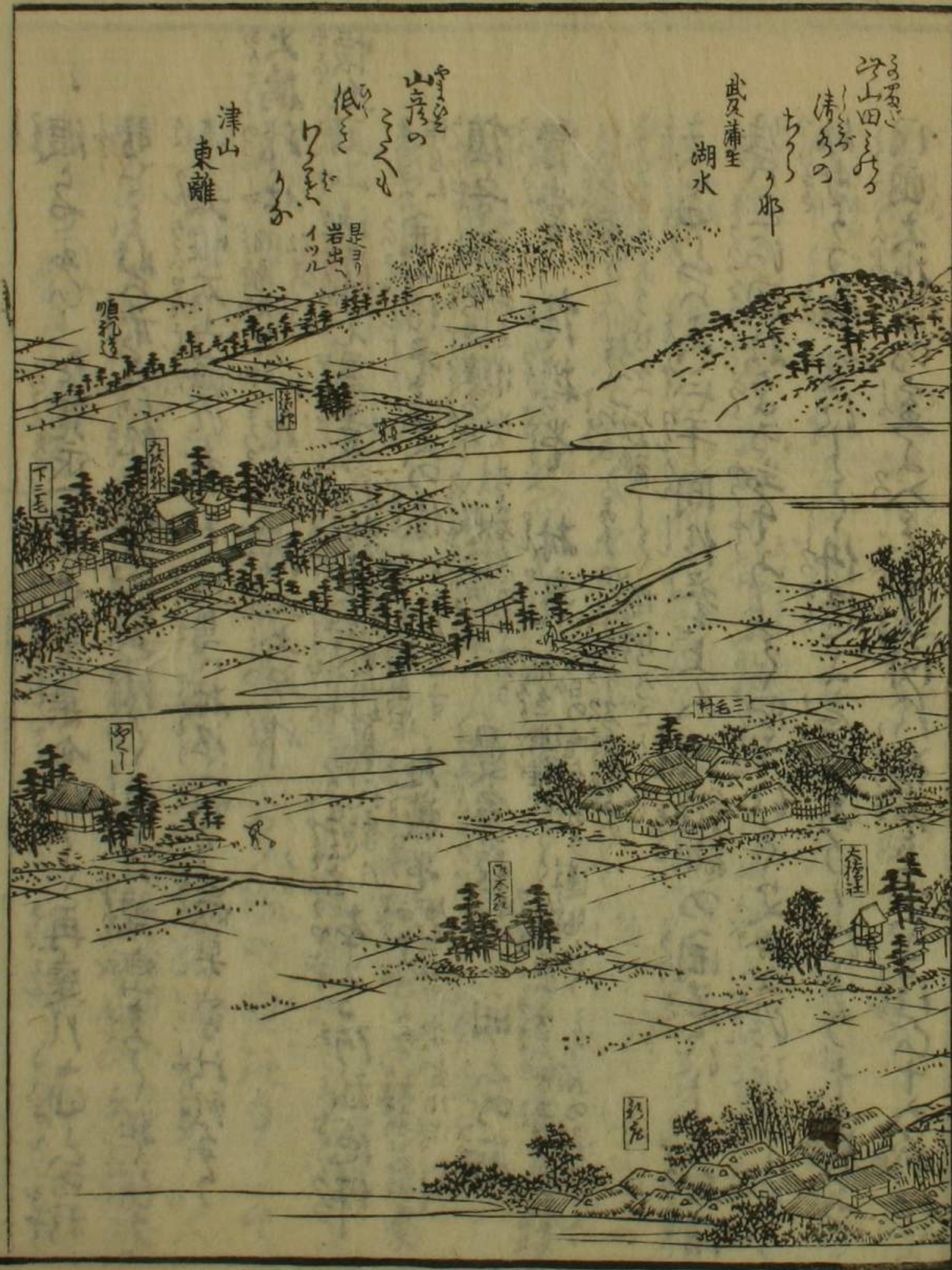
竹  
梁先繁陸昔  
孰者枝疎千  
尺碧琅玕雲  
梢漏月篩金  
散露葉含風  
翠成鳴鳳管  
渭濱裁取釣  
魚竿王猷一  
去無知已徒  
使此君臨曲  
欄  
詭公美



地天富令わい手置帆員今彦校知年の子孫の徳あり  
とらひく其徳神と拜祭したるをりあふくふる  
郡井辺村と郊里神社の勢よも  
藏王権現社 小倉の村南三町山の半段あり 金鳥石 毎の山に  
石の七入らぬはけり 金鳥石の邊に石の神

杖石 後山の入らぬはけり 杖石の邊に石の神  
一威のとらひく鳥有るをたすく神影の民が手の







渡らるるを寛永三年里老集會して再建凡ての形  
勝とて山あり紀の川に流るる後之翠巒あり其いえ  
奇岩怪石山巔にありて鳥の林にありて寂莫なる法苑あり  
大橋神社 月形大橋村 紀州 波止土堂神社  
懐岳山二法師院 兜恩寺

岡山信譽上人の像 七二尺二寸 地蔵堂 本尊阿彌陀佛  
作ふ 天竺皇太子 八幡大菩薩 本尊の西より安土寺  
鎮守社 井ノ木村 共ニ奉安のたまりあり

骨堂 後橋也 林泉 曼多羅堂 岡山の廟  
いし手考か 白とありて 蓮地ありて 巨巖ありて

支那の天竺年間信譽上人 一丈一尺の困甚に 高僧  
姓のこの国にあらざるや 四女はく父母は後孤子となり  
幼少より 敏智に 伴はるる志願ありしに 十歳より  
日圓大樹の堂に入りて 學問に 専ら 上人の 法に 十歳にて

美譽を列す武州川越運智寺の圓を上人のゆゑに親  
學修練せしむるに 伴はるるあり 江府坊と寺中興 親智  
圓師の徒 ありて 法要秘藏を 授け 林送と 學い 又  
師席を 辭し 武州山田原 苦行 ありて 威し 世は 日取  
源後寺九卷上人を 名に 戒布 漢式を 授け 世は 日取  
支う して 國 慈母山 推現 ありて 下向の おろし 名 丹  
耶宮 廓 美徳寺に 住持 たり 其後 諸國 法 經 廻の 志し  
あり して 大和 終り あり して 日 邦 あり して 梵 良の  
かゝる 學 聖 地 遺 あり して 赫々 あり して 山 公 慕 あり して 其 あり して  
あり 見て たり して 古 堂 あり して 其 後 家 の 靈 地 あり して  
傳 あり して 茅 舍 あり して あり して 主 あり して 講 あり して  
す あり して 上人 念 念 あり して 勅 あり して 弘 あり して 他 あり して 本 尊 あり して 教 あり して  
い あり して 大 日 あり して 慈 あり して 一 輝 あり して 考 あり して 授 あり して 傳 あり して 主



光恩寺  
吐前王子

浄土本朝高僧傳曰  
小倉光恩寺信卷上人傳  
釋行善子惠傳一名  
永光道眼明也常  
泥視廣繼之統纏  
於世緣遠離浮雲  
之榮輝嘗遊化紀  
別小倉歸茅今之  
光恩寺是也性能  
詠和歌華晨月夕  
以發於思風心頭  
無事持常念寬  
永十二年三月日  
十念拾報



蓮池  
此寺  
建  
土  
入  
收  
麥  
秋  
泉  
水  
の  
舟  
の  
扇  
の  
哉  
橋  
仙











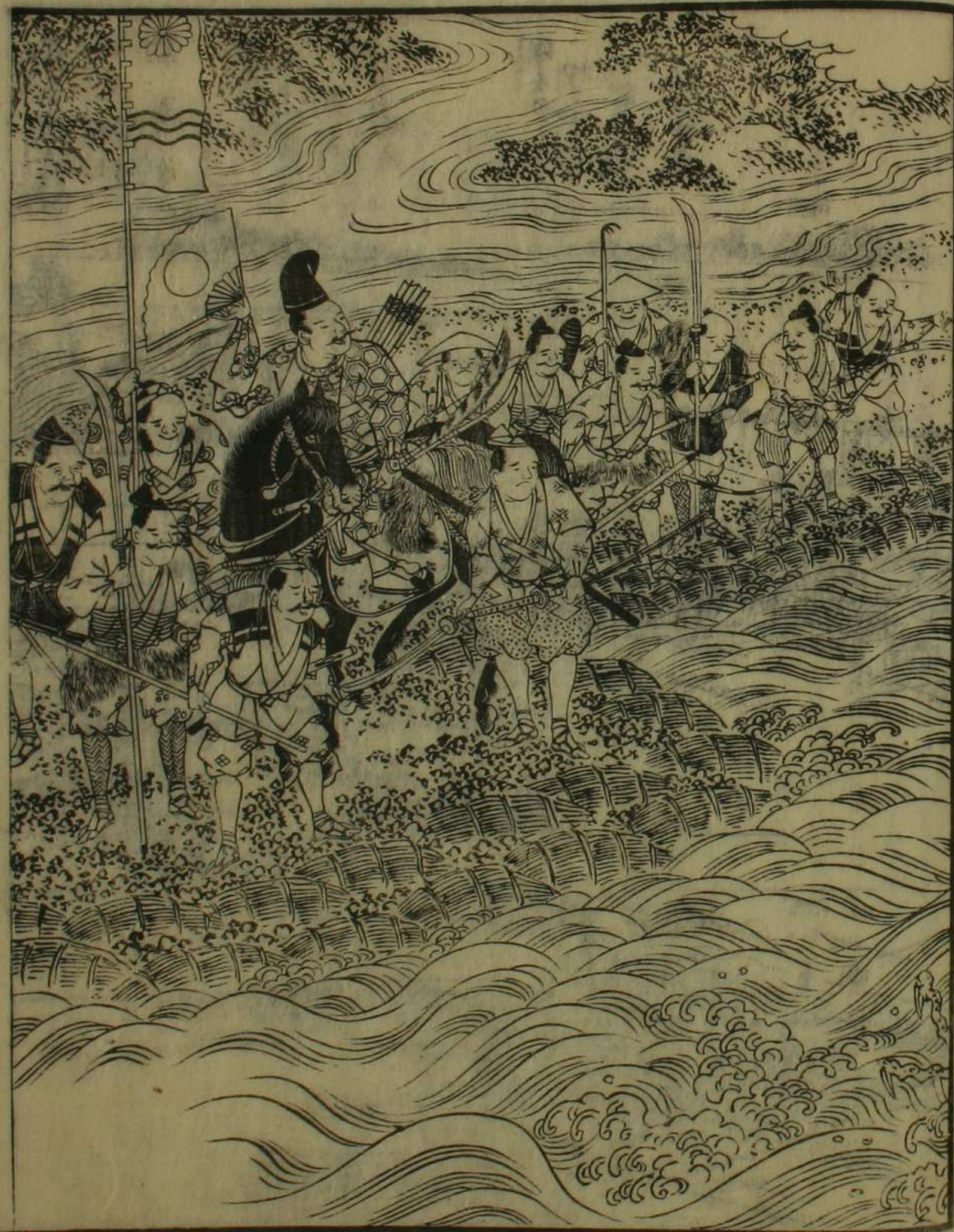


























佐伯神社 中野村にあり一村の生土神 紀伊一座室屋大連公 左京外別大連

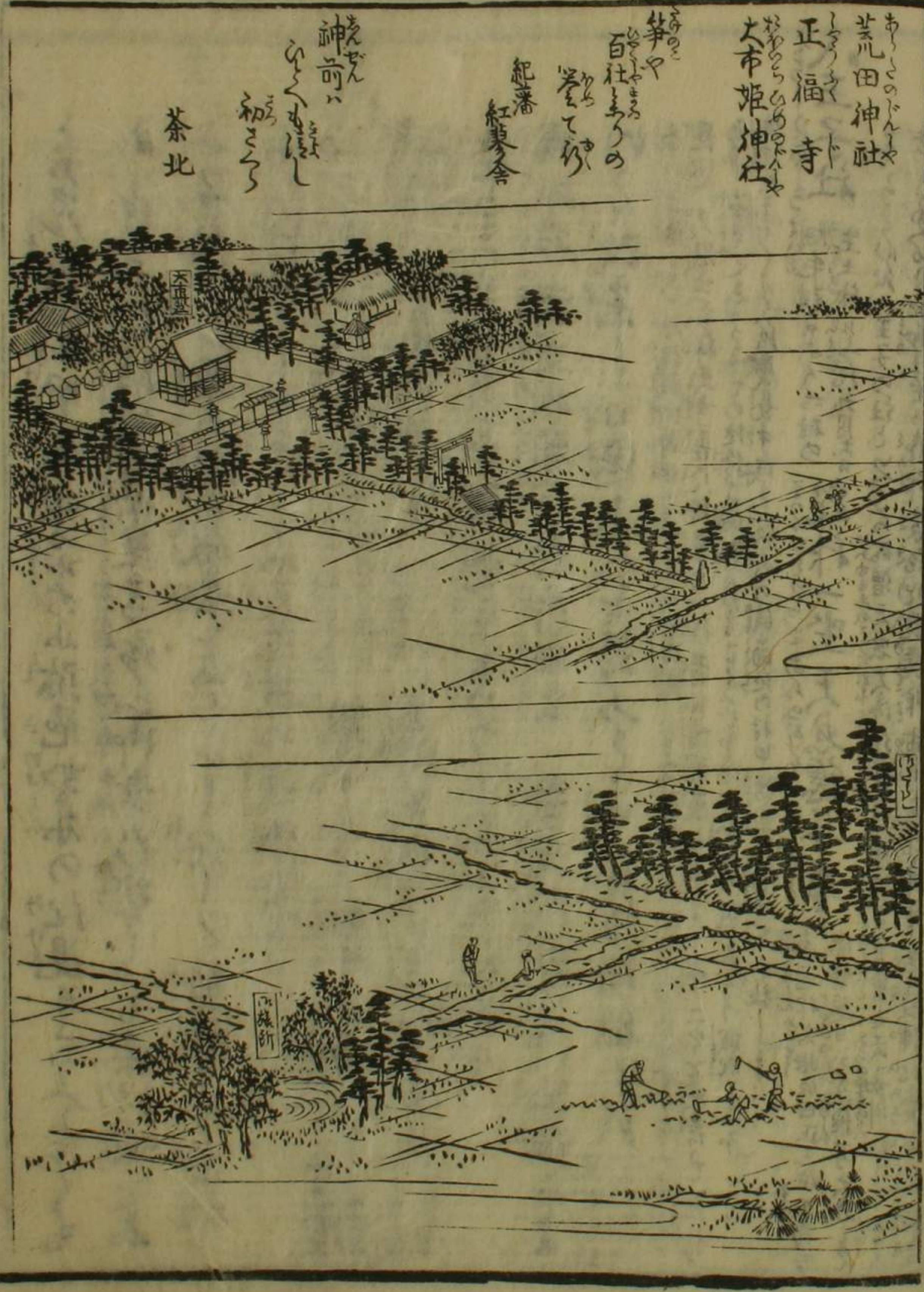
橋姓神社 日向村 紀伊一座左大臣諸兄公 真日向祖敏達天皇御孫別甘南備

五智房の墓 日向村にあり 秋氏融源の五智房と称し根本寺に後上人の伯父あり

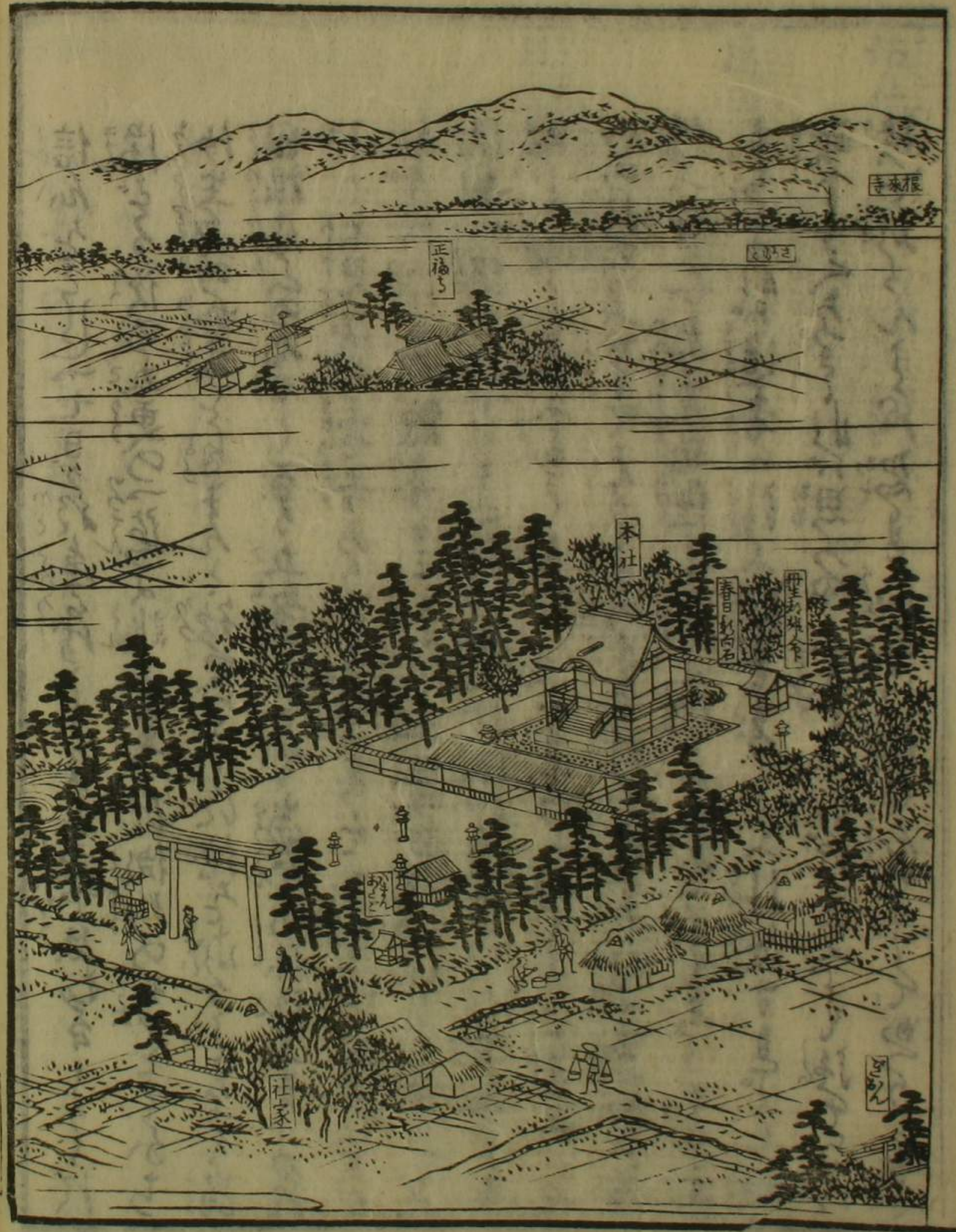
より道公のむすひはくは法の圓くしきう嘗て山の上  
の香とりは法院内の露は清くはるるは秋念一有待を  
厭離の峯に坐す権況の威徳は崇まると山は歩くとこ  
解脱の徑路は行願よりその比國東より一人の然る道者  
あり室前よりげたる作願のくく之所権況を感念恩の地  
は生身の仙陀と拜し奉り生離の要路はきりたす人と

信心をこし一七日の夜を過し一なる靈を感むる一うだ  
ほむる夜の五更の二時より誰とて微妙の夢とてあち  
ゆ生身のあまるとなさんと欲せざるに他をばうとてう  
國根事とのありくるる五智房をせ尚々の孫路をまう  
そく不思議なる香ありなる夜もいとともまはらあじと  
ゆ身は清く餘なきこと一沙城殿の内に一はく  
送者い逸者のありてあは法をばげく下山  
即ち彼らもろふくそは何れもあをばらるる香がの  
竹の枝のついでてるものうき竹の戸も五智房一つは持  
伴ふし心都全誦經一更に傍み人ありともきりる面  
もらちるは送者の法不疑をさうくは法すきとて顧  
醜くもあまら山が思ひあまをさびたるとして法を  
撰とらんは思ひま向容に法をばらるる





荒田神社  
 正福寺  
 大市姫神社  
 茶北  
 紀藩  
 紅葉舎  
 百社  
 神前  
 初



寺藏  
 正福寺  
 本社  
 伊豆の御入会







根社丹生都姫神社 根社丹生都姫神社 春日神影向石 春日神影向石

末社 末社 御手洗池 御手洗池

拜殿神樂舎 拜殿神樂舎 御旅所 御旅所

社傳ゆりへ 社傳ゆりへ 天照皇太后 天照皇太后 大御所 大御所

神功紀 神功紀 小津の 小津の 廣田の 廣田の 社 社 大御所 大御所 神神の 神神の 荒田 荒田 直 直

二月立 二月立 仲姫 仲姫 皇后 皇后 后生 后生 荒田 荒田 皇女 皇女 大鷦鷯 大鷦鷯 天皇 天皇

根鳥白王子 根鳥白王子 皇女 皇女 延喜式 延喜式 神名帳 神名帳

二座 二座 魂命 魂命 五世孫 五世孫 劍根命 劍根命 之後 之後 荒田 荒田 直 直

魂命 魂命 五世孫 五世孫 劍根命 劍根命 之後 之後 荒田 荒田 直 直

二座 二座 魂命 魂命 五世孫 五世孫 劍根命 劍根命 之後 之後 荒田 荒田 直 直

二座 二座 魂命 魂命 五世孫 五世孫 劍根命 劍根命 之後 之後 荒田 荒田 直 直

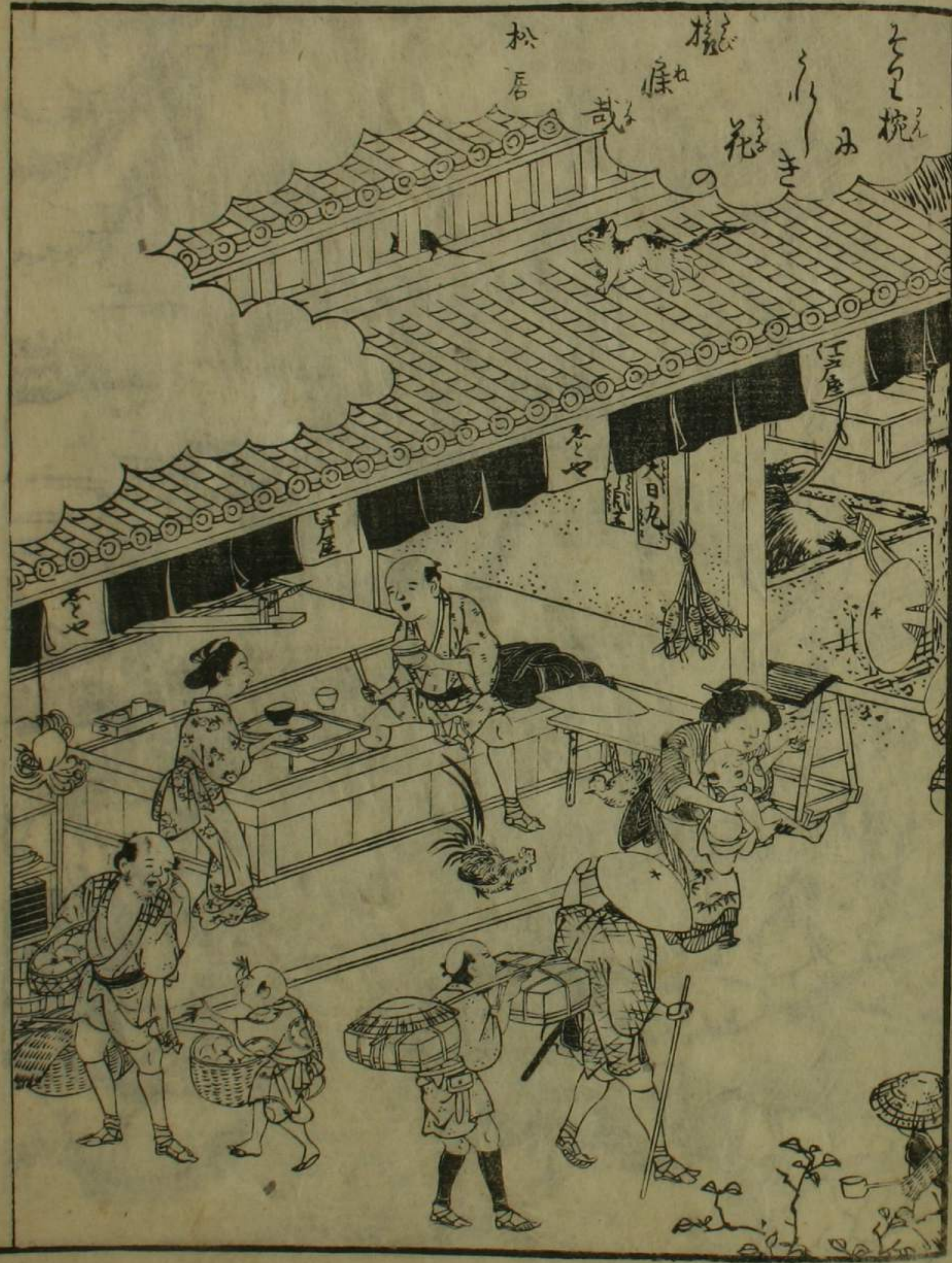
二座 二座 魂命 魂命 五世孫 五世孫 劍根命 劍根命 之後 之後 荒田 荒田 直 直

二座 二座 魂命 魂命 五世孫 五世孫 劍根命 劍根命 之後 之後 荒田 荒田 直 直

二座 二座 魂命 魂命 五世孫 五世孫 劍根命 劍根命 之後 之後 荒田 荒田 直 直

御船神社 御船神社 延喜式 延喜式 神名帳 神名帳 延喜式 延喜式 神名帳 神名帳 延喜式 延喜式 神名帳 神名帳







住持の  
大蛇  
美男  
桂女  
中  
中









後々真教大師上人 當山ありて法幢をたて法雷を轟かす

角僊の兆室ありて仰べし言ひたり

大傳法院 一山の中央あり

本寺の春日如来 長一丈八尺鳥慧也 鳥羽上皇の 大金剛薩埵 長一丈二尺侍尊門院の頭懸と座下也

右尊勝佛頂 長一丈二尺花紋と美福門院の

原當山の奉願の真教大師 鳥羽上皇奉く御願寺とす

大正天皇元年高野山中帝建立ありて後百五十八年を歴て正

應元年根来の移と仰奉願真教大師諱の覺悟正覺坊と號

高野のいづ密嚴院をたて住る是より世の人密嚴寺者

とも奉つたる俗姓肥前州藤津の産の柏原の帝 桓武天皇 五世の

孫平将門屬胤依統次兼元の子あり

橋氏ありける此後傳の御に仁和寺成就院寛助大僧とすは

とく松平とすは此の照法沙をてける者なり南都に在り

俱舎唯識瓜窺の華嚴法相をまかたしめたる春日八幡慈野

高野の神の護持ありてとすを祥瑞とす又弘法大師早く

寺ありてん瓜中よりあがりたまふより天養元年十六歳

にて寛助大僧正也とす新發深衣とす沙汰戒衣の十八

契印兩部の大法衣法衣ありて保安二年九月廿一日成於院

の道場より西部の灌頂をうけたまふとす眉見より白光衣

とあり堂内をてり大治元年承阿闍梨の効ありて真隆の

志願堀起とす大傳法院を建て傳法大會瓜執りて密教と

恢弘し羣生瓜利濟せんといふ園と東寺に寄寓し縮行明

神ありるとありて瓜の昔瓜ありて高野山よりなり

芳野川の辺りより岩手の莊の契券を拾ひて遺者と承て

ぬいたまふ券主する者のころごとく瓜感して岩手の莊瓜を

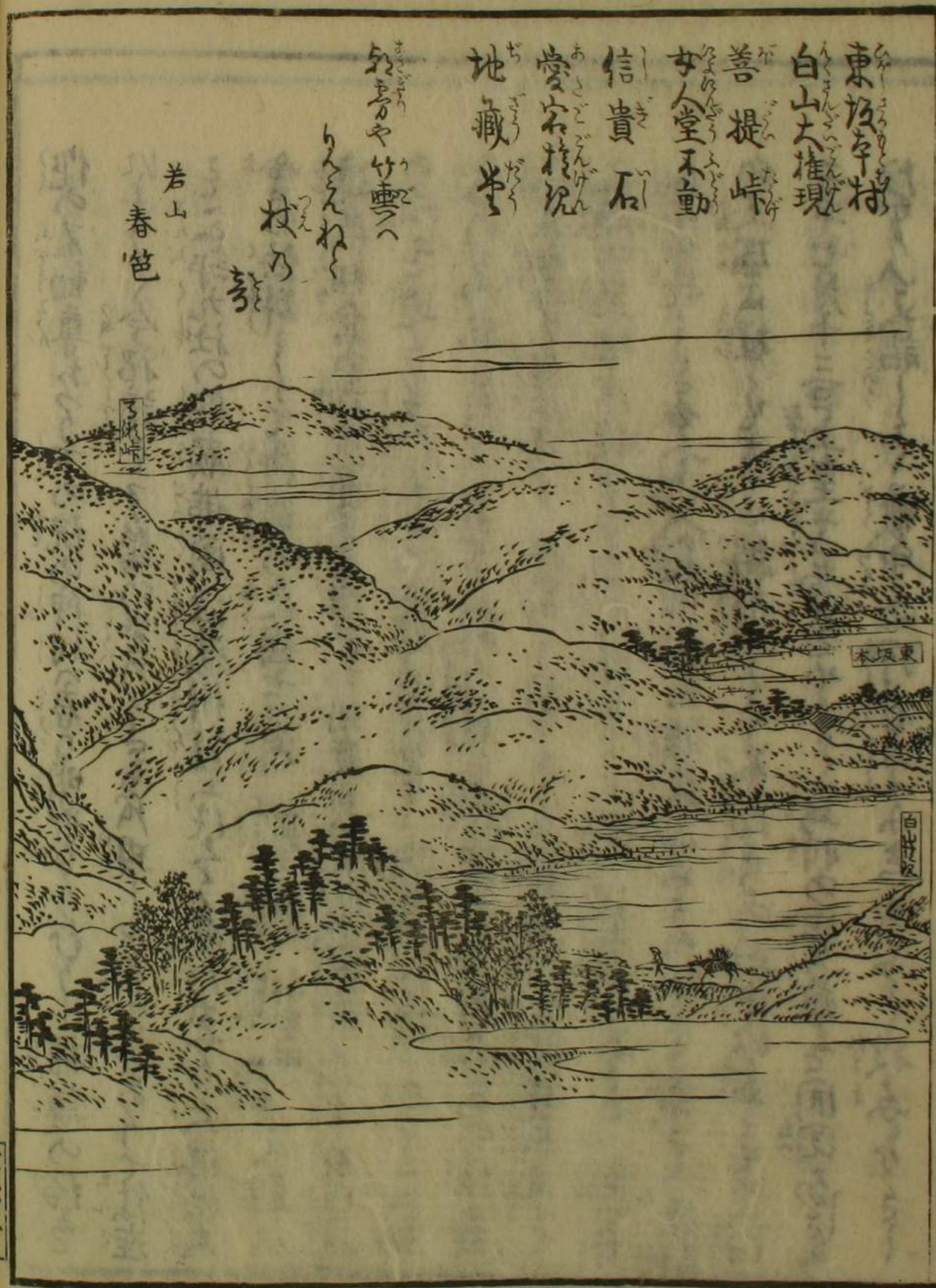
若手寄附し是より是年根来の瓜相ありて伽藍と建んと



欲し先祠を先手の名に宮をすく日本國中大小の神祇一  
千餘社を勧請し二部権現と崇めたりて以鎮護と  
いふ白山権現像をあつて吾上人の善願を隨喜し  
影のどくきとて衛護とて宣ふことよき別根來山  
の巽のゆるり一廟をうめり崇まつる大治五年花藏院聖  
慧法親王を野山に詣りたまへり宮奥のすまみ申す  
鳥羽上皇へ奉奠あり院とて勅し神願寺とて傳法  
院日ゆびとて文の尊勝佛頂を安置し学侶二十六人と  
並後小傳法院とてありて後後溢れし大會とて  
ちひ難くし更ぬ奉し大傳法院をすらる十月十七日  
法密嚴日月に落慶とて曼荼羅供養を設けは日上皇臨幸  
きたるひ夜かへり大傳法院のてりて傳法大會を  
其密嚴院にす者常居の室にすく奉尊弘法大師神

他の不動尊ちり下の院の神行春日明神ありむし擁護の約を  
いりし今招請とて髻の童のりて瓜現とて未降ありて能産  
と二部九社の神廟佛圖經藏僧坊をたて建たむり大傳法大  
會の供料しと神賜の莊園七ヶ所 石手 山寺 岡田 山東 相賀 志富田 又別  
遠及初倉の莊園曼荼羅供の用度たまへ長兼元年能産性  
の珠を造りて多門天王のまもりて寶珠をばんとて不動  
尊の鳥籠にたまへたまへり宝珠は太治のまもりて大和の信貴  
ふか堂とて真隆のまもりてなまへり畏沙門天王現形とて  
三顆の宝珠に授けり其一顆をうり一顆は兼山にたまへ一顆は自  
身護持しとる市入寂のまもり根本にたまへりも先手の物に  
の玉塚にたまへり緘封しとて不効その厨中にたまへり  
二年七月十二日上皇をす者たまへり鳥羽の寶藏を園田あじ  
たまへり又詔しとて藏中の所有たまへりて投交ありし





東坂幸村  
 白山大権現  
 善提峠  
 女人堂不動  
 信貴石  
 夢宍橋況  
 地藏堂

外方や竹雪へ  
 りんえね  
 杖乃  
 若山  
 春筥

谷鼓

木坂東

白山社



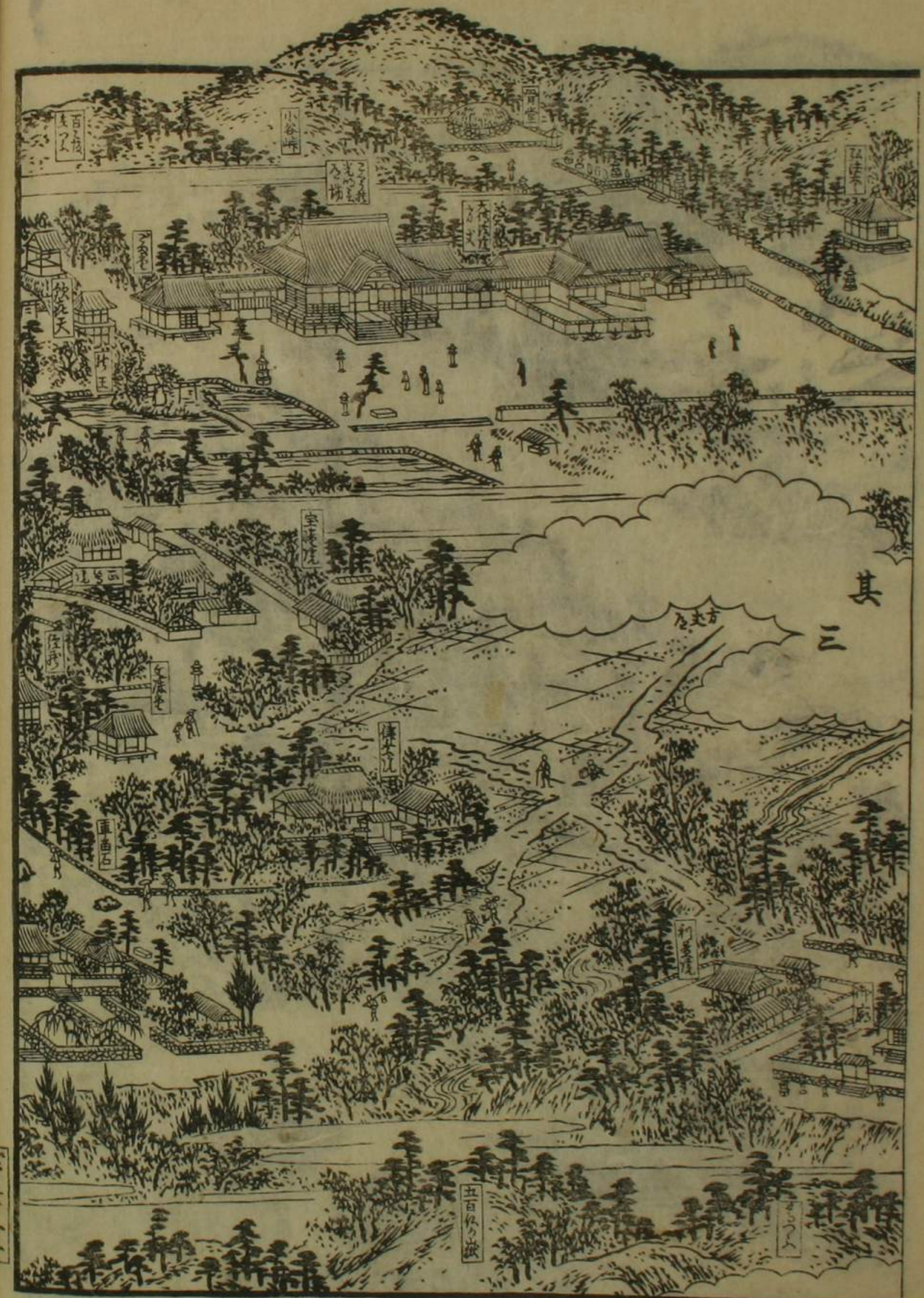


其二

大傳法院  
 維濱不動  
 光明會坊  
 圓明寺  
 御影堂











むんとありける者よかから高野大師手画の等身の像と善  
 女尊王の画像と二鋪を請ふたなりて持てつる寺鎮と  
 たまに相因忠通公青龍の感後真福寺の跡也が懺悔八幡  
 大菩薩の偈を説く禮拜し上皇白蓮の殿上み生じとゆ  
 りぬ〜〜かひく尊者の衆内は志ろ〜〜とま〜〜五藏の祀  
 観み入〜〜の賓生ありに現〜〜暗言〜〜の餘  
 靈瑞とありてま〜〜長兼二年冬十二月上皇詔して傳  
 法院の座主〜〜金剛峯寺の座主〜〜と〜〜と  
 可承以大傳法院座主職即為金剛峯寺座主令知行滿山  
 車被院宣備自今以後承以件院座主即為彼寺座主可令  
 檢校一山知行滿寺仍供僧所司等中有闕之時座主擇器  
 可令定補滿山諸德宣兼知不敢違戾者院宣如此悉之以  
 狀



長承三年十月廿三日

右兵衛督源奉

座主御房

保元元年尊者四十一歳宮建の願満足し傳法大會貞隆佛  
法の基本已成立しぬ茲年金剛峯寺大傳法院西御願寺  
の座主職瓜持丹院阿南梨真誓に譲り密嚴院小田義を以て  
三摩地を修ししむるに二月廿一日より後堂外に出る人  
もも月を越てよりいふ所をあらざるもの間より窺ひし以  
不動明王とありて如樓羅殿の中めでたきなりかりかては四十  
五の青年より密嚴道場小坐ししむるも動んたるは門  
内へ他人の出入をいさしむ唯兼海竜玄等西人の外市身近く  
衆ものちつしし金剛峯寺の徒衆嫉妬しく正覺上人入威  
ししむるに徒弟大院勢を食ひしむるはも藏たるに  
おみ戸をこめり入るに傍りしむるも押入りて定座瓜撃

破星枯骸瓜撃中して死しむるに先院の廳小差に曰  
正覺上人滅ししむる已小彌殺年徒弟未詭計はも藏して  
矯誣聖聽に二月十六日尊者定より起り手書を上  
皇女をもちしむる宣旨に属日有浮説而傷聖襟忽  
手杖至天顔大怡に四月二日大傳法會の散座小する者席  
に臨り秘教の妙義を演たすに數百の聽徒散れしむる涙  
をこらし其後まことしむるに保元六年十二月七日院徒等の  
諍訟小よるに時右金剛峯寺の徒與大傳法院の  
衆論相賀殿不承者又生 園寺の衆及莊園の  
壯丁等數百人瓜あむむ大傳法院の徒五百餘輩此奸計  
をききて防刃戦ん議にさ者定と出り制し止め  
を暴悪のともぐら監入せしむるに兵杖執りて  
沙門の化業にあはれ防戦するものありしむるに後を損出に  
下し嚴め誠言勵ししむるに涙瓜流し齒を切り退去







八日の昧爽光徒等密處に疑ひ入り定軀を拏らんとす  
不動の二像相ありと云る相議し云本材と肉身と雜體セ  
は其實を存せ覺せん云々夫繼をりて像の膝に體たり  
血をひく地めり尊者此歎し自ら夢をあけてそまの奉尊  
なるを過すか後いかにあり免も角も斗へて定瓜出せたる光徒  
本像の血滴たる瓜を身毛つとらそそ者の威威は  
敢て抵觸するものありそ者明瓜荷負し根本ありし  
なまぬ數百の清衆皆そ者みまそそ根本ありし今密處の  
奉そ瓜雜體不動と稱する是たつ此る像の本法大師彫  
刻し東寺の西の院に安置するをそ者東寺に寓居て  
手自に像瓜雕刻する美福門院開召する摸るの二像を宮  
中みむ之體を供養し摸像瓜東寺へ奉像を密處院へ  
送りせたり其摸像現く東寺にあり寺衆の暴惡を天誅

達し巨猾宗玄信覺玄ホ二十六人を捕へて三衣と脱し  
俗めし遠く配流し兼賞ホの廿余人のそ者のそ者と  
て薪水の役を勤むる誓紙をりて罪と謝するものにて  
二百九十九人満山の僧侶州のごく盡れ依るに於て上皇  
尊者勅し野みみしむそ者考し日愚昧之徒  
於一味法海抱彼此別執ふ可輒示化根來山者役優等墨經  
の之靈蹟形勝不多減野峯所以自大治初豫開基趾伏望在斯  
勝壤永激禪波奉祈宝壽天長國家地久と勅して允許せ  
淨侶を承傳法院に之住し春秋の大會合山の諸規  
奉の執りたる根本圓明寺を創建し上皇命し佛  
願寺と名する佛塔神祠經藏僧坊等數十區を造る永治元  
年百日の同求開持の法を修りて結願の日向への山に五百  
の佛面地より涌出る其所をより求開持の



五百佛のそのもを常々四月寺の西廂に坐して其字の秘規  
をこじたまふ金色の阿字壁間を炳現して堂の内照耀り  
まご堀の内をめぐり月輪規に堂前を善徳竜王の小池あり  
二月月輪水上に現れり二月をうり清弟子達本版に摸して  
とむこれより堀の内をめぐり月輪院と号し其版圓明寺あり  
と入康治二年三月十九歳七月廿八日たらしまら凡のころりるを  
なす大衆を勝多羅尼を満平愈をのる者曰生れを常  
りくより誰より免とん只速疾成佛をいのぶと十二月十二日  
圓明寺の西廂に結跏趺座し手に秘印をもち口を密咒に  
誦し禪定め入りて終に声収り息絶る生後四十九歳  
に縁の薪たらしらに尽く五時の説きまを満ることを傷み濟  
度の船をせむしを雙林の朝に先遠くをうむ山鳥梢よ  
啼く別離の歌に副嶺松嵐に唱へる哀動の声をたたく

徒衆ありまろと號哭し緇白をせりて後泣く入滅をふ

きのなる者へあつた 已上根來寺縁記  
大意なり

雪玉集

天文二年四月廿日大鳥の社信田の鹿をどり取もあつて  
づらの行かう社のあつたに連うたをうる亦根來より乃  
迎ひて馬二足いそぐ人のあつたまゝありて食菴傷  
ののあつたをせたり思ひのほどをむむ侍まゝかの寺の  
十輪院との當時一山の字頭碩字のまゝのえあつたあ  
坊ゆきみ入灌頂をたてあつて後朝のつたをうむむじな  
弟子の實相院との坊ゆきみむむじなよりの案内とらん免  
角して根來ゆきりたるも衆徒十人あり立はらあり  
てむく入るんよあり旅のやほとれむいけぬとゆふ  
さむぐ色代へて連あつた大門のうらまへ入る



後みきけはれどかりなるよ侍るらんく遊み諸堂巡り  
侍り山中見る物のこほくむかへるうらさつさうらほ奉堂  
傳法院めくねひはげけし

高野山口ゆきにもあさきふ法は修ん世々のあも 内大臣實隆  
維のこ不動を拜見し

動とあは身をわけてる姿をく血の涙ともあはせてる 全  
續後拾遺

夢の中は後も現も夢あはれさるる後も現もあまき  
此後後わらひ出さる

つらめん現もあはれ七十のたつたあはれ一夢の世のあう 内大臣實隆  
実相院のつ所あつとそこれれうらや  
すもあつたつ初夜の鐘はききや

あひまきこえなくあむらねむらうのこ聞あり 全

あつとれ鳥羽院浄持物の市鏡を上人ゆまのせむの上人そと  
賜つとく奏しりしり

真澄鏡はむねをさる姿を誠心三世の佛をりる 覺鏡上人  
太上皇の市へしゆ

續千載集

をいかに誰も佛かきりぬと鏡の影はたむらひ  
西行上人撰集抄云

近頃めくやのこみ賞鏡上人こむむと那多いどをねじり  
真言宗はふりきりきり一印頓成の春の花ゆめい寂寞の霞  
の夜ふらつし禪心合掌の秋の月いりうを無垢の心乃うらみ  
てて弘法大師の昔の跡をわらく傳法院とのこ西行  
龍花三會のあつたをまちて入定をまきりけり  
らみいぬる初座のあつたのあつたもつとく大師の市を







右 前中納言大真公御寄附  
其餘繪木佛像佛具世具珍器等奉呈し給ふ

○住古堂塔大概

大塔 二階置高十八間 本尊金六日如來 長三尺四寸五分  
大師堂 三間 御影本像 長三尺 不動堂 二間  
阿弥陀堂 三間 鐘樓 中門面五間 穀屋 湯屋

右大傳法院境内小あり

錮鎖不動堂 五間置角作 本尊不動明王 長四尺二寸 樓門  
求聞持堂 三間 多寶塔 三間 經藏 二間 地藏堂 長三尺四寸  
春日社 指皮尊 拜殿 鐘樓 穀屋 毗沙門堂 天満天神

右密嚴院境内小あり

御影堂 面十七間 中尊覺鏡御影 長三尺寸五分 左脇相應不動  
右脇尊勝佛頂 二部推現 華表家種字

伊志祈曾社 御藏 鐘樓 樓門 中三門 秀節六間

右圓明寺境内小あり

豐福寺 五間 本尊虚空藏 長尺九寸 薬師堂 三間  
千手堂 三間 鐘樓 中門 地藏堂 閑山堂 役行者堂  
九社大明神社 御正殿 三社一社 各三社 拜殿 宝塔 荒神社

右豊富寺境内小あり

千手院 三間 本尊阿弥陀佛 文珠堂 三間 鐘樓  
毘沙門堂 三間 不動堂 三間 大六堂 三間 本尊阿弥陀佛

右小谷小あり

菩提院道場 護摩堂 五智堂 五佛堂 横三間  
本尊五佛 辨財天堂 不動堂 三間 毘沙門堂 三間  
穀屋 稻荷明神社 岡加井社 辨才天社 地藏堂 三間  
右菩提谷小あり







観音堂 三間 本尊馬頭観世音 長三尺一寸 鐘樓

八角の不動堂

右大谷あり

五寶堂 三間 本尊阿弥陀佛 虚空藏堂 三間

薬師堂 三間 観音堂 三間 地藏堂 三間 大師堂 三間

右蓮華谷あり

地藏堂 三間 本尊地藏菩薩 薬師堂 三間

右西谷あり

観音堂 三間 大師堂 三間 本尊弘法大師 辨財天堂

右菖蒲谷あり

阿弥陀堂 三間 求聞持堂 三間 本尊虚空藏 稻荷明神社

右二岡あり

御船大明神社 辨財天社 拜殿 稻荷明神社

右前山あり

一山境内 南十一町半 西十二町 大門 大橋 大門池

番屋坂は 未申のこま 下馬は 成安のこま 百坂は 東金剛童子

善提峠は 辰巳のこま 不動長一尺六寸 覚録上人の所造

两学頭

妙音院 和州長谷寺ゆ移り 智積院 京師東山あり

月輪院 小谷 教應院 小谷 修学院 又其先西学頭寺六院

釋迦院 前山の 惣持院 大塔の 理趣院 前山

抑関山興教大師高野のふねのてん兼元年大傳法院建立ありて金剛峯寺大傳法院兩勅願寺の座主小任トなる其後保延元年春兩寺の座主職を待明院真善阿闍梨へ譲り隆海あがりも相續く座主職小任ト学頭(宝生房教尋あがり)曜覚房信惠あがり等備の座主学頭尤も因山大師の(葉







めく相續し本をたぐ百五十餘年を經くのち中性院頼瑜法  
印学頭たりとて天朝を奉りきりて正應元年戊子の春傳法  
密巖二基瓜根本ら引らんとて傳法院方の大衆ありて  
きりてはよとて根本寺大繁榮となりきりて建武二年武  
百餘年世間静まり軍卒の根藉監坊甚しきりて行人の徒  
甲冑をもち兵杖と操りて山寺を守護と學侶も道瓜  
徒して世を遠くともくも行人非學のともくも加執甚  
きりて後ゆり都ら他の地を奪ひ人の境を侵と其魁二四人所謂  
專識岩室阿伽井杉の坊あり各百千衆を率て威殺軍  
將のて大坂の命ゆ従りて依てと十三年二月廿一日は  
佛岡作坊本とて二千七百餘宇一時は灰燼とありぬ大傳法院  
下廓は災を免りて京師紫野の文藏司とて人豐大岡の  
たぬりて寺瓜毀ち奉尊がむ材本をも船積りて淀川を

別のちせり其は慶長京兆尹板倉伊烈を聞て文藏司を呵責し  
根來へ送りてむる耐奉尊三俣の根來へかろり返りたり材  
本ありて大坂の棄ちて朽敗たりたり慶長のち浅野  
九京を幸長干時命して根來山の四至傍示をいし山林濫伐  
を禁止元和九年國祖南龍院殿彦坂氏命して法度  
とてめ東西の坂をいし制れをうけ下馬をいし下乗の本牌瓜  
立をせたまふし行人は割據血腥の固執あるを除げ數年山  
中穩ありざるをいし寶曆元年國君大惠院殿をま野野氏  
日向半命して行人は瓜逐ひたりて蓮華律兼兩院をいし  
兩寺頭と定りて二十五年瓜寄て僧厨を資たりたり根  
嶺再貞此君のちりて依たり  
嗣君善提心院殿先考の御  
ころごは續く衆僧をいし國家の安全をいし  
常光明會の大婦人清信院禪尼の御願をり住年智積院







若山 高市志友編述

雕刻性名

浪華 武内華亭刪訂

四之卷上 京都井上治兵衛  
四之卷下同 同

京師 西邨中和圖画

五之卷同 樋口源兵衛

渡邊玉壺齋書

六之卷上 大阪山崎庄九郎  
六之卷下同 同

文化九年壬申正月

和歌山

帶屋伊兵衛

製本書林

浪華

河内屋太助

名所記總目錄

浪華心齋橋通  
唐物町書林

河内屋太助梓行

平安秋里雜高輯

五畿内名所圖會 全部五冊

各圖社社佛堂の博記山川此谷國  
村里名賢英哲の経路を傳ふ  
名所を  
撰録を以て悉く今の所景とその  
高し  
實に全條大成の去以下名所圖會

都名所圖會 全部六冊

都拾遺名處名書 全部五冊

大和名所圖會 全部七冊

河内名所圖會 全部六冊

和泉名所圖會 全部四冊

摂津名所圖會 全部三冊

東海道名所圖會

全部六冊

本曾路名處名書

全部七冊

伊勢路名處圖會

全部六冊

仁色も別あり  
上仕  
手余  
仕  
て







日本風土記 全部 八册

増補 大日本國花鳥集記 全部 七册  
新板 箱入 近刻

難波丸綱目 全部 七册

撰別名跡志 全部 七册

泉州志 全部 六册

長崎記行 此書は先生  
及び其の親名を以て全  
を考ふるに

東國名勝志 全部 五册

東れ記行 全部 五册

西國船政記 此書は先生が  
西國に遊んだ  
時々の記述を  
まとめたもの  
である

都れなぶ巻 全部 二册

任在名勝圖會 全部 五册  
此書は先生が  
各地の名勝を  
調査した結果  
をまとめたもの  
である

勝地山水奇観 前後各四册  
真景 浪華旭江藩  
前

撰津名所圖會 全部 十册

東陽乃以十二次社社神國名所曰法比之  
上今欲為撰者多故多一乃以凡名所  
之の道に記すを云ふ

難波ぶら巻 全部 五册



